

「十年の歩み」発刊にあたって



東札幌町内連合会

会長

柴 元博

東札幌町内連合会が昭和36年に発足して以来60周年を迎え、この度、東札幌町内連合会創立60周年記念行事として祝賀会開催、記念事業の実施・記念誌の出版を執り行う運びとなりました。歴代の役員をはじめ会員の皆様方のご協力に感謝を申し上げます。思いがたかです。

歴史を振り返りますと、明治4年11月宮城県旧仙台藩白石城主片倉小十郎の家臣開拓使貫属として望月寒の地に入植(旧暦明治4年11月17日新暦12月28日)し、その年のうちに小屋掛開始するという優れた働きにより、開拓使の岩村判官から白石村と命名(旧暦明治4年11月25日新暦明治5年1月5日)されたのがこの地の始まりです。ちなみに、今年(令和2年)は白石開基150年を迎えることとなります。昭和51年の地下鉄東西線開通により急速に都市化し、現在は、商業施設・病院・マンションやアパートが建ち並び立派な町並みになりました。

東札幌町内連合会のこの10年を振り返りますと、当町連合会長は、平成23年度に今井廣氏(平成24年1月ご逝去)・高橋和夫氏、平成24年度に布川賢一氏が務められ、平成25年度に私が引き継ぎました。

この間に、「白石こころーどモザイクタイルアート」事業、東園小学校体育館で実施した「豊平・東札幌町連合同防災基幹避難所設営訓練」や白石区役所の移転に伴い開催会場を川下公園に移した「白石区ふるさとまつり」など各単町、町連各部、各種団体が手分けして支援をしてきました。また、町連道路交通部や交通安全母の会、交通安全協会などの尽力により平成30年12月12日には、交通事故死ゼロ日数2,000日を達成し区長表彰を受賞しました。このほかにも、高齢者の見守りや敬老祝品の贈呈、青少年の育成など老いも若きも地域の中で生き生きと過ごしていける活動を進めております。

そして今、平成から令和へと時代が大きく変わりました。地球温暖化に伴う気候変動・自然災害および胆振東部地震のブラックアウトなどのような種々の災害に対応する必要性に迫られております。白石区の防災訓練、東札幌町連独自の防災訓練、豊平地区と合同の防災訓練を通じて自主防災活動を着実に実施できるよう準備して参りたいと考えております。

私たち、東札幌町内連合会は、札幌市の機構、各種団体、各単位町内会など地域のあらゆる人達と連携・協力をしながら、地域の活性化と安全・安心で住みよいまちづくりの基盤整備を進めて参りました。これからも、地域の中で育んできたチームワークを通じて様々な困難な問題を乗り越えて参りたいと考えておりますので、皆様方のあたたかいご協力とご支援をお願い申し上げます。

結びに東札幌町内連合会の益々の発展と皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。